



5年後の日立市をどうする—基本計画に市民の意見を聴く会

観光、福祉、コミュニティに多くの声

5年後の日立市をどうするか。平成13年度からの日立市基本計画策定に広く市民の意見を聴く会が、7月1日から22日まで市内9カ所で開かれ、観光や福祉、コミセン建設などについて多くの意見が出されました。

また、さきに実施された市民5千人を対象にしたアンケート調査では、地震、台風、火災、原子力被害に対する「危機管理」、「老後の保障」、「雇用の安定」、「雇用の保障」などに高い得点がありました。

これらの結果や意見は関係部署で調整された後、基本計画の素案に盛り込まれ、今秋再び聴く会にはからす。

●聞く会で出された主な意見

少子化・高齢福祉

- ・子どもたちが放課後集まれる場所がほしい。
- ・児童クラブの時間の延長を。
- ・子育ては保育園をつくればいいというものでもあるまい。
- ・お年寄りが子どもを世話する複合福祉施設があれば。
- ・介護が必要となる前段階の施設がほしい（デイサービス等、高齢者が気軽にいける場所）
- ・高齢者が活動できる機会をつくつ

てほしい。

防災・環境

- ・災害時の情報伝達体制をしっかりつくってほしい。
- ・危機管理は自主防災組織との連携強化をはかれ。
- ・高鈴林道の粗大ゴミ投棄がひどい。鮎川への流出が心配。

商店街活性化

- ・日立市の中心部は魅力がない。南部地区の人は常陸太田市や水戸市にいてしまう。
- ・市民会館は駐車場が不便。改良すれば活気が出る。
- ・銀座通りは限界。大型店誘致を。
- ・商店会の人も頑張ってもらわなければ活性化は難しい。

コミュニティ

- ・自治会に入らない人がいる。コミュ



お年寄り子どもと一緒に遊べる複合施設がほしい

百年塾推進委員研修会

みらい委員会提言の具現化で論議

百年塾推進委員の研修会を開催。い委員会から提言された「未来への展望」について、意見交換をしました。この提言は先に本部長に提言したものが本部会議で検討され、修正されたものです。

提言書の①新しい時代の展望、②何ができたか、③今を考える、④どうしたらよいか、について、永井みらい委員長から説明があり、具体的な方策や部会名など多くの意見や要望がありました。

- 新しい時代に対する百年塾の活動目標が明確でない。明文化を。
- 企業のOBが動くとまちが活性化するのではないか。対応が必要
- 百年塾のための百年塾ではなく、市民の百年塾になるように。
- 公民館やコミュニティの活動と有機的な活動をしているか。
- 総合的な学習の時間が始まると、もっと多くの市民教授が必要になる。
- 自分の趣味にとじこもりがちであるが、能力を外に出すことが肝要。
- 部会名はシンプルに。総務的な部

会があってもよいのでは。

- 組織図の表現に工夫を。
- 他団体との連携が薄い。連携すればもっといいものができる。
- 既存の団体を入れた地域づくりを。
- 若者を忘れないで。
- 本部長は民間でもよいのでは。

社会問題に 取り組む講座 少年犯罪は社会全体が加害者

7月15日、日立市女性センターで社会問題に取り組む講座「今、考える少年犯罪」が開かれました。

始めに、富士短期大学助教授の後藤弘子さんによる「少年犯罪とおとなの責任」と題しての基調講話がありました。

続くフォーラムでは、後藤先生と共に市教育研究所相談員の大澤康雄さん、日立警察署生活安全課長の大浦隆夫さんをパネリストに、日立市における少年犯罪の実態とその背景などが報告されました。

●学校の余裕教室などを活用して地域百年塾の第一歩に。

今後、これらの意見を副本部長・正副部会長会議などで検討し、来年度に生かすよう進めていきます。



グループ別に意見交換

大澤さんは、問題を抱える子は親も家庭内外のコミュニケーションがとれない、まず親が努力を。大浦さんは、非行への対処は夫婦で共に悩み取り組むこと、そして他に相談する勇気をと。最後に後藤先生は、少年犯罪はおとな一人ひとりが間接的な加害者。従ってその対応策、予防策を全員が負う責任があるとの自覚が必要、と語りフォーラムを締めくくりました。

ニティ活動に支障が出てきている。

- ・何でもかんでも地区社協にやらせようとするのは困る。
- ・公民館をコミセン的な施設に。
- ・公民館がフルに使えない。コミセンがほしい。
- ・コミセンの役割・効果を評価すべき。
- ・小学校は地区の施設。余裕教室活用のありかたを根本的に問い直せ。

観光・産業振興

- ・観光の視点がない。吉田正記念館は氏が存命中につくるべきだった。
- ・海の活用アイデアで年間通してできる観光を。
- ・宿泊できる温泉施設、道の駅、お土産品の開発など、観光による市の活性化を。
- ・観光は地元の利益がない。
- ・日立は工業の街。温泉開発で観光という街ではない。
- ・駅は市の顔。もっと人が集まる施設に。
- ・日製の顔色をうかがう行政でなく、市民のための行政を。
- ・教育と雇用を結びつけた施策を。
- ・公設市場を活用できないか。
- ・休耕地を農業をやりたい人に貸し、都市と農村の交流を。

男女共同参画計画 策定のための公聴会

日立市男女共同参画計画を策定中です。より実効性のある計画とするために、市民の皆さんの幅広い意見を聞くための公聴会が開催されます。

公聴会の日程

- 8月28日(月)
10:00~12:00 日高公民館
14:00~16:00 市役所242会議室
 - 8月29日(火)
10:00~12:00 女性センター
18:00~20:00 女性センター
 - 8月30日(水)
10:00~12:00 久慈公民館
18:00~20:00 日立公民館
- 《お問い合わせと申込み》
日立市女性政策課 ☎38-2460



おとな全員で対応策を

元気な日立めざして

ユニークイベント・祭り準備に汗だく

祭やイベントのシーズン到来。各種の団体やグループがさまざまなテーマで企画、仲間が集まって汗を流しています。そんな祭の裏舞台取材しました。

日立青年会議所では、イベントを通して日立の町の活性化に動きはじめました。一つはかみね公園での光のオブジェ展示、もう一つはシビックセンターでの高校生ライブフェスタを支援しています。

高校生ライブフェスタ

高校生たちを支援するのは、青年会議所青少年教育委員会です。委員会では高校生たちのすきなこと、やりたいこと、場を設営することで、彼らの持つ元気な行動力と豊かな感性を導き出したいと考えています。

8月6日に開催されるこのフェスタは、高校生によるライブパフォーマンスの他、「高校生の主張」と題したオブジェの展示なども。出演者はもとより、スタッフとして企画から運営まで高校生たちが担当します。

7月の準備委員会では市内各校から50名近い高校生が参加、会議に続いてポスターの作成にとりかかっています。中には百年塾フェスタで活躍してくれた懐かしい顔触れも。



参加の感想としては、ほかの学校の人たちと友達になれるのが最も嬉しいとのこと。そして「創造する喜びがある、ボランティアの楽しさを知った、今しかできないことをしている」という充実感が得られる」など生き生きとした言葉が返ってきました。まちの活性化のカンフル剤に高校生パワーを、と勉強会や準備を重ねてきた会議所メンバーの熱意が、今実を結びつつあります。

ライトアップフェスタ

かみね公園あんどんまつりを盛り上げようと、ニュープロジェクト推進委員会のメンバーが中心になって、ペットボトルを素材に、かみね公園頂上の展望台広場に展示します。

オブジェにはたくさんのペットボトルが必要なため、市内の小・中学校の児童や生徒たちに持ち寄りを依頼したり、さまざまなグループや団体、市民にも

呼びかけました。これに応じて坂本小、東小沢小、仲町小、駒王中、滑川中が回収に協力、ボランティアに2名が名乗りを上げ、親子でのオブジェ製作の申し込みもありました。

すでに形になったオブジェも保管されており、ラベルはがしとボトル洗いに追われる作業場には、ボトルが山積みされていました。

展示期間終了後にはペットボトルをリサイクル工場へ。6か月も試行錯誤の後、ようやく現実にごぎつけたものですが「リサイクル意識の啓発にもなれば」と、市民参加型のイベントを成功させようと張り切っています。

塙山さんさん祭り

20年続いているこの祭は、真夏の



花火絵の準備に大忙し

太陽がさんさんとふりそぐ下で、子どもたちがのびのびと育つことを願って、7月の最後の土曜日に実施されています。

毎年、多くの団体をはじめ、若者や子供との共同で祭を創ることをテーマにしており、今年は塙山学区内の幼稚園児や、小・中学生のポスターを募集し、大久保・台原・河原中学校の放送部には祭の進行役を依頼しました。

また、祭のフィナーレを飾る仕掛け花火の花火絵は、塙山幼稚園、かねざわ保育園、きたむこう保育園の園児たちが選んだキャラクターが夜空を飾りました。

地域の人たちが一日中楽しめるように多彩なプログラムが組まれ、月に入ると日曜日ごとに集まり、準備に汗を流していました。

お出かけください！ 福祉ボランティアまつり

福祉への関心が高まっています。日ごろ行っているボランティア活動や、福祉活動を知ってもらい、理解を深めるための「ボランティアまつり」です。

●とき 8月26日(土) 午前10時～午後3時

●ところ 日立市民運動公園中央体育館 ●お問合せ 市社協 ☎24-7799

公演	体験	活動展示	その他
障害者による演奏会	車いす 点字	ボランティアグループ	・移動おもちゃ ライブラリー
小学生ジャズダンス	水彩画 工作	地区社協	
手話の歌	押し花 化粧教室	企業	・福祉施設作品即売会
銭太鼓	電気教室 科学教室		
空手実演	インターネット		・フリーマーケット
さんさ踊り	ジャンボしゃぼん玉		・模擬店

夏の思い出が一生の宝

山中友子隊

「山中友子隊体験村」が7月22日からスタート。日立市内外から集まった30名の小中学生たちが、親元を離れ共同生活を送っています。

自然体験を通して、子どもたちの生きる力の育成を目指すこの体験村は、もとやまキャンプ場を拠点に30日という長期の日程で行われます。

プログラムは、キャンプ生活の仕方をはじめ、酪農体験、ママチャリフルマラソン、いかだ作りや川下りなど実に盛りだくさん。子どもたちはそれぞれ一つひとつの体験から、自立やチャレンジ精



自分たちで作ったじゃぶじゃぶ池

神、共同生活の楽しさ大切さなど様々なことを学んでいきます。支援・協力してくれるたくさんの人たちに見守られ、大きく成長してほしいと願います。

※山中友子は日立鉱山の中で働く者同士が安心して仲良く暮らすための師弟共済制度。

市民と生徒が陶芸で交流

明秀学園高校美術教室

明秀学園日立高等学校の美術教室の設備を活用して、陶芸市民講座が毎週木曜日と隔週土曜日の午後18時から開かれています。受講生の多くはPTAのお母さんたちで、口コミでどんどん増えていますが、男性の参加がないのはちょっと寂しいです。

この講座を指導されるのは美術科の櫻村敦雄先生をはじめ、市民教授の川松末治さん、菊池忠雄さん、吉田由紀子さんたち4名。

「時々、生徒と大人と一緒に作品づくりをしています。うまくいっていると実感しています。生徒たち

には一緒にやれるうれしさが見えます」と、櫻村先生。この美術教室は粘土を通して自然体で交流できる場になっているようです。

12月には教育プラザで作品展示を行う予定とか。大きな電気炉の棚には、生徒と受講生の作品が火入を待っていました。



できあがりを楽しみに

定年後の生き方を学ぶ

「定年退職者のための地域入門」講座がはじまり、7月15日(土)の第一回目の講座には22名が参加しました。

夫妻での参加や、定年後の60才前半の人、定年前の人などが多く、大

川原友吉さんの「これからの生き方を考えよう」の講義に、自分たちのおかれている環境を再認識するになりました。

交流会では受講者の心ゆるる気持ちに分かり合い、和気あいあいの集いとなりました。これを機会に全講座受講したいとの希望が多く、活気ある講座になりそうです。

市民教授

あの人この人

2000.4月～2000.7月に登録された方(敬称略)

- 高橋 和幸 久慈町(野外活動オリエンタリング)■鈴木重四郎 久慈町(ハーモニカの演奏)
 - 平戸幹四郎 助川町(指圧・マッサージ)
 - 吉川 理英子 瓜連町(イラスト・絵画一般)
 - 土地 貴子 大洗町(漫画・イラスト)
 - 城下 文子 十王町(押花)
 - 鈴木 五郎 小水津町(介護一般、カラオケ全般、農業一般)
 - 片平 淳一 相田町(子ども向けゲーム指導、バルーンアート、野外活動)
- お問い合わせは生涯学習課または、百年塾サロンまでご連絡を!

☎23-9165